

井上道義、一つ一つのタクトを大切に

咽頭がんから復帰 上田で12日、N響公演



復帰会見で「生活にクラシックがどれだけ必要なかを常に問うている」と話す井上道義＝東京都豊島区

軽井沢大賀ホール(北佐又郡軽井沢町)で開催される「春の音楽祭」に出演している。

7月に退院し、自宅で療養していた。闘病中は「声が出ず、耳も聞こえなくなつた。音楽も聴けなかった」。何のために生きているのかを問い直したと振り返り、「もう一度生まれられたような感覚。一つ一つの演奏会を今までよりも大切にしたい」と考えている。

吹奏楽部がファンファーレを演奏する。問い合わせはサントミュージゼ(☎0266・8・27・2000)へ。

咽頭がんを患い、4月から活動を休止していた指揮者の井上道義(67)が都内で復帰会見を開いた。12日に上田市交流文化芸術センター「サントミュージゼ」で開くNHK交響楽団の演奏会でも指揮をすることになっており、「皆さんが待って

いてくれたことがうれしい」と語った。12日はバイオリニスト前橋江子も出演する。ショーンソンの「詩曲」、マスネの「タイスの瞑想曲」、ブルックナーの交響曲第9番(ノヴァーク版)を披露する予定で、「全て初めてで

も楽しめる素晴らしい曲」。交響曲第9番は演奏が1時間を超えるが、「体力的には大丈夫」と自信を見せる。井上はオーケストラ・アンサンブル金沢の音楽監督で、4月に大阪フィルハーモニー交響楽団の首席指揮者にも就任した。毎年春に

2日に開館したサントミュージゼについては「ホールには付随したソフトが必要。(文化の)グループを育ててほしい」とエールを